

平成24年度  
Townsville  
友好親善  
訪問団

# タウンズビル市友好親善訪問団 に参加して

周南市立鹿野中学校 2年

## 渡辺 朱莉

Akari watanabe



帰国してから数日が経ち、やっと心が落ち着き写真や映像を思い出として捉えられるようになりました。今になって、「もっと写真を撮って、もっと話して、もっと買い物すればよかった」と少し後悔しています。出発前は9日間も外国に滞在するなんて、想像もできませんでした。出発する日もあまりピンとこないまま飛行機に乗った記憶があります。

最初に到着したのはシンガポールです。今回の訪問団のメインとはちがいますが、「外国」という点では共通していたので、勉強になりました。観光をしたり、通貨でドリンクを買ったりと、楽しいひと時を過ごしました。

そして、やっとオーストラリアに到着しました。この季節は日本とは逆の冬で、シドニーでは指先が少し冷える程でした。タウンズビルに到着してすぐに市役所に向かい、市長のジェニー・ヒル氏に会いました。小さなパーティーという形で歓迎していただき、とても心が和みました。そして、水族館と博物館を鑑賞したあと、タウンズビルの観光スポットであるキャッスルヒルに登りました。高い場所からタウンズビルを一望し、ホストファミリーのことやこれからのことを考える、ゆったりとした時間を過ごすことができました。そして、いよいよホストファミリーと面会です。どんな人なのか、どんな家なのか、不安と期待でとても興奮していたのを覚えています。

そして、リンダとエレンに初めて会いました。ふたりとも車内では異国人である私にとても気さくに話しかけてくれました。理解できた言葉は数少ないですが、なによりその真心が緊張をほぐしてくれました。家に着くと、とても頭のいいジェシーという犬が私を出迎えてくれました。彼女は初めて会う私に吠えず、お気に入りのゴルフボールで遊ばせてくれました。



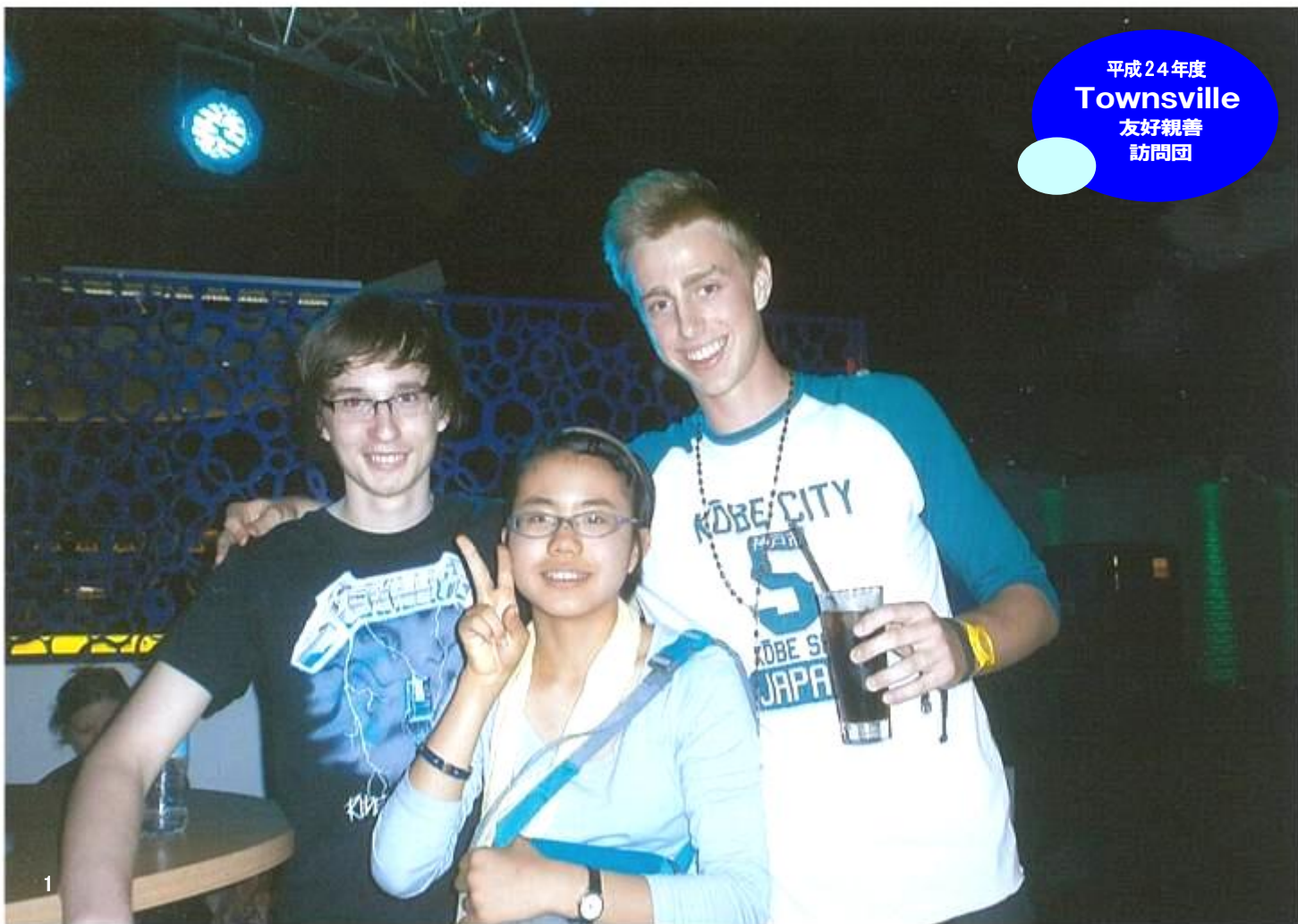
リンダに日本から持ってきたお土産を渡すと、とても喜んでくれて、低い棚の上に飾ってくれました。

日曜日、リンダは私を市場に連れて行ってくれました。本当にたくさんのお店が並んでいて、立ち止まらずにはいられない程でした。ここではもう少し買い物をしてあげようと思ったのですが、そのあとは海の近くで行われていたフェスティバルに行きました。海外ドラマでしか見たことのない「スムージー」を初めて飲みました。

これらすべての体験が私にとって初めてで、とても新鮮でした。また、訪問したホストファミリーやライアンの友達も、言葉は通じないものの、積極的に日本語で話しかけてくれたりもしました。ホームステイをした期間は特に異国の文化の違いで不便に思ったり、戸惑ったりしました。でも、相手の表情やしぐさを見てみると自然と笑顔になってくるのは本当に不思議でしたが、難しくも楽しい時間でした。彼らも日本人である私に対して戸惑うことがあったでしょうが、私自身を受け止めてくれていたのが感じられました。



1. ビラボン・サンクチュアリーという動物園にも行きました。この写真は、そのヘビに触ったときのものです。人生で初めてヘビに触ったので、少し怖かったけど良い経験になりました。
2. 休日にホストファミリーとサマーフェスティバルに行きました。たくさんの人と店があり、とてもわくわくする時間を過ごしました。私もステージでの演技に参加したかったです。
3. タウンズビル市に到着してすぐに、市役所に訪問しました。市長からプレゼントを一人一人受け取り、ホームステイに対しての不安が少し和らぎました。
4. 市役所を訪問したあと、タウンズビルの観光名所であるキャッスルヒルという丘に登りました。丘といってもタウンズビルが一望できる程の高さだったので、とても気持ちよかったです。
5. 彼はホストファザーのマークです。マークは最後の夕食に大きな肉を焼いてくれました。仕事の関係で、私と過ごす時間は少し短かったものの、他人とは思えない程やさしく声をかけてくれました。



## タウンズビル市友好親善訪問団に参加して

広島女学院中学校 1年

### 小田 有暉乃

Yukino Oda

「いつか外国に行ってみたい」

こんな夢を持って、今回このタウンズビル市友好親善訪問団に参加しました。八泊九日の日はあっという間で、私にとって、人生で一番の時でした。

オーストラリアのシドニーに着いて、一番最初に思ったのは、「まず、外国人と話そう」という事でした。実際、Hello.と言って無視する人もいれば、嬉しそうにHello.とかえてくれる人もいました。いくら皮膚の色がちがったり話す言語がちがうと言っても、思っている事や、感じている事は同じだなあと感じます。

次にタウンズビル市に着き、市長訪問をした時、私は市の方に、オーストラリアのトレードマークでもある黄色でツルを折って渡しました。言葉も何を言っているか全く分からなかったけれど、おっしゃりたい事はよく分かりました。その時に、ツルを受け取って下さった方の満面の笑顔は私の宝物です。異国の人と言葉は話せないけど、理解し合えるっていいなあ、喜んでもらえるっていいなあと改めて思いました。

もちろん、観光もすばらしかったです。シンガポールの首がないマライオンも良かったと思うし、周南市民の子供をすべて収容できるのではないかと思うほどのオペラハウス、あたりに散りばめられたガラスが光り、イエス様といつでも話し、祈ることができるセントメアリー大聖堂など、他にもたくさん所に行きました。でも、観光が一番よかったと思うのは、子供から大人まで、時折How are you?と聞いてくれま





1. 好きな2人と。みんな、とても優しい人たちでした。
2. セントメアリー大聖堂です。周りのスタンドガラスの色があざやかで、外から見ても大きくて立派でした。
3. ボーリングの時の写真です。仲の良い3人にうつってもらいました。目が赤いと言って大喜びでした。
4. ライオンスクールの皆さんが、一緒に洋風ソーラン節をおどってくれました。
5. ホストマザーです。いつも優しくかったスーザン、大好き！！

した。オーストラリアの人は本当にユーモアがあつてプリリアントな人だなあと、心から感動しました。

そして一番の思い出は、やっぱりホームステイです。車に乗って家に行く時、折り紙で箱を折ってあげたら、開口一番「アリガトー」勉強してくれてたんだ！と思い、私も英語で「You are welcome. (どういたしまして)」と返しました。心が通じ合う感覚が、ステキな気分でした。

ホームステイをした家族の人はみんないい人でした。ホストマザーが荷物を降ろしている時に、何か英語でベラベラと言っていたけれど、その時にホストブラザー（十五才）が「二モツヲ、オロスノヲテツダイマシヨウカ？」と

わざわざ訳して下さいました。一目から、感激の連続でした。

ボーリングに行った時にも、「ポテトチップスをおごってくれたり、「タノシンデマスカ？」と聞いてくれる。この優しさはいったいどこから・・・？」といつも思いました。最後の日、学校に行つてお別れ会をした時も、その優しさがつきる事はなく、たくさんの方達を紹介してくれて、写真もとってくれて・・・私の家は本当はここではないかと思うほどでした。

今回の訪問で、外国にもっと行きたいと思いましたが、最高の一時が最高の思い出になって、心から良かったと思っています。

# タウンズビル市友好親善訪問団

## に参加して

山口県立徳山高等学校 1年

岡川 奈央 Nao Okagawa

平成24年度  
Townsville  
友好親善  
訪問団

動物園で。ワニやヘビをはじめ、ウオンパット  
やコアラなど、様々な動物と触れ合えました。

タウンズビル市友好親善訪問団に参加したのは、自分の英語力を試すためでした。  
実際に英語圏の人々と会話をすることにより、様々な発見がありました。  
まず、オーストラリアで話される英語と日本で勉強する英語とは、発音が異なることです。オーストラリアの英語には訛があると感じていたのですが、実際には、それをいざ目の当たりにすると、戸惑ってしまいました。  
ホームステイをしている時、ホストファミリーが就寝前に、「グッダイ」と声をかけてきました。何を言われたのだろうか、しばらく考えた後、(もしや、グッドナイトではないだろうか) そう思い、「グッドナイト」と、返事をしました。ホストファミリーがそれを聞いてうなずいてくれたことに、心底安心したのを覚えています。  
また、自分が学んでいる英語のレベルは、それを話して生活するには、ほど遠いと感じました。  
ホームステイ中には、ホストシスターの友達と会う機会が多々ありました。しかし、その会話の内容は全く理解できませんでした。それどころか、自分が話しかけられている時ですら、何を言っているのか分からず、ただ相槌を打っただけで終わってしまうことがありました。  
ボキャブラリーを増やす努力をしたり、方法を学んだりすることが大切だと、この時強く感じました。

オーストラリアに行つて、困つた体験や、悔しい思いをしたことなど、様々な思い出を作ることができました。その中でも、一番心に残つたのは、ホームステイ最後の日にホストシスターが、私の英語を誉めてくれたことです。

「あなたの英語は上手です。私はあなたの英語を理解できます。」

そのようなことを言ってくれました。ホームステイに行く前、そして、行つてからずっと、自分の英語が伝わっているのか、聞き取りにくくはないかと不安でした。シスターのこの一言はその心配を自信に変えてくれたのです。

今回の訪問では、勉強するだけだった英語を実際に使つてみる事ができました。それによつて、コミュニケーションをとるのに最低限必要な知識は身につけていることが分かりました。それは自信になりましたが、一方で新しい課題に気づくきっかけにもなりました。それは、身近な言葉を英語で言えるようになることです。日頃、何気なく使っている言葉なのに、いざとなると英語で言えないということが度々ありました。それを克服して、今よりも自然な会話ができるようになりたいです。

日々の努力が大切な課題なので、意識して取り組んでいきたいです。



1



2



3



4



5

1. ホストシスターと、彼女の友達と行ったショッピングセンター。中には、フードコートや花屋、郵便局など、たくさんのお店がありました。
2. シドニーのスーパーにて。アロエの果肉入りジュースが売ってありました。
3. 一緒に宝探しをした、ライアン・カトリック・カレッジの生徒。
4. キャッスルヒルの山頂。夜には美しい夜景を見渡すことができました。
5. タウンズビル市の水族館での昼食。山盛りのサンドイッチが出てきて、驚きました。



ホストファミリーと過ごす最後の夜に、家族  
で食事に行ったときの写真

平成24年度  
Townsville  
友好親善  
訪問団



## タウンズビル市友好親善訪問団に参加して

山口県立徳山高等学校 1年

沼田 麻夏

Manatsu Numata

私はこの友好親善訪問団の一員として活動できたことが、すごく良い経験になったと思います。

ホームステイによって、海外の文化の違いや、英語の難しさと面白さを感じられたり、現地の色んな年齢の人達と仲良くなれたりしたことは、一生の思い出になると思います。

他にも、一緒に行ったメンバーの人と仲良くなれたことは、本当に嬉しかったです。それに、搭乗員の方とも話せたことで、知識が増えました。この訪問で一緒だったメンバー、搭乗員の方にはとても感謝しているし、これから忘れないと思います。それだけ、私にとって今回の出来事は大事なものになりました。

気づいたこととはというと、日本の道路の近くに植えられている木とオーストラリアの木の違いが一番印象的でした。オーストラリアの自然を見てきた後では、日本の木がどことなく不自然だと感じました。しかし、逆に日本の長所も見つけることができました。そこで私が感じたことは、食べ物などは日本で、環境がオーストラリアだったら良いなと思いました。

他にも、日本と違って土地が広く、人口が土地に比べて多くないため、高い建物が少なく、家も一階建てで横に広い家が多かったことや、建物の形が独特だったこと、砂浜の砂がすごくサラサラで白くて綺麗だったことなど、オーストラリアを好きになる魅力が色々と発見することが出来ました。

私はホームステイが二回目です。一回目はニュージーランドに行きました。どちらもとてもしっかりと、現地の人とも一緒に行ったメンバーとも仲良くなれたのが一番のいい所だと思います。英会話の力もつき、社交性も身につけることが出来るのがホームステイだと思います。私はホームステイによって、英会話というものに少し慣れることが出来たし、海外に対する不安もなくなりました。スピードの速い会話も落ち着いて聞けるようになりました。そして、海外への憧れも強くなりました。日本ももちろん好きですが、日本にない雰囲気にごく心が惹かれています。そして、一回目のニュージーランドでのホームステイでは、楽しいということだけに意識がいついていました。しかし、今回のオーストラリアではホームステイを楽しむことも出来ました。ホストファミリーになりたいなという気持ちも少し芽生えました。

ホームステイはこれからの社会に役立てられる、自分の世界を広げることが出来るなど、必ず自分の人生に変化を与えてくれると思います。

最後に、この友好訪問親善団の活動は、日本に帰ったこれからも続くもの、続けるべきものだと思います。



- 1. お別れ昼食会の際の合唱中の写真
- 2. 動物園らしきところに行ったときに撮った、カンガルーの写真
- 3. 動物園らしきところに行ったときに撮った、コアラの写真
- 4. 学校の名前の写真



# タウンズビル市友好親善訪問団 に参加して

山口県立徳山高等学校 1年

## 山中 真太郎

Shintaro Yamanaka

平成24年度  
Townsville  
友好親善  
訪問団



お別れの瞬間

今回、このような訪問団に参加することができ、大変良かったのではないかと改めて実感します。具体的な大きな理由の一つとして、やはり文化や価値観の異なった多くの人と関わったということです。僕は、いつの日か人と関わることに關しての魅力を抱いていました。そのため、今回の訪問に対して大きな期待をよせていました。その期待に反することなく、もはやそれ以上の経験を得ることができました。約九日間、さまざまな人と関わる中で学んだことは、自分の思っていることをハッキリと主張した方が良いということです。ホームステイ先で、こういう場面がありました。皆で夕食を食べている時に、次の日の事についての話し合いになりました。僕はどのような服装で行けば良いのか分からず、尋ねようとしたのですが、なかなか上手く伝え切ることができず、僕はほぼ諦めてしまっていました。そして自分の中で勝手に予想をし、服装を決めてしまいました。しかし、ホームステイ先の方は何度も僕に対し、意見を聞くこととしてくれました。日本の文化では、少し内気になって話をするといいものがあると思います。しかし、オーストラリアでは違いました。内気になることよりも、主張していくことの方が大切なのだ分かりました。

このように、今回の訪問では、さまざまな文化や価値観を体験し、学ぶことができました。

そんな中で、新たな自分自身に対しての発見もありました。それは、人と話すことがとても好きであるということです。気づけば、英語力も話し聞き取ることもできないのに、人に話し掛けていました。また、なぜ英語力がそんなにあるわけでもない自分がこのように沢山の人の

シドニーでの眺め



With お母さん・ジェームズ君 in タウンズビルの島



With サーファー in シドニー



と会話することができたのか……。たぶん、それは多くの人と話すことにより、何かコツのようなものを掴んだからではないかと思います。人と話すことにより、楽しさを得ることができると同時に、会話する力も少しずつだが、ついていくものだと分かりました。

今回の訪問により、僕はさらに異国文化に対する興味、関心が深くなっていったと思います。世界には新たな出会い、発見、楽しみが無限と存在し続けていると思います。これから生きていく内に、それらのものができるだけ多く体験していこうと思います。そんな時には、今回の訪問により体験したことが軸となっていくのではないかと思います。

最後に、僕は本当にこの訪問団に参加でき、良かったです。

最高の思い出、成長を得ることができたのではと改めて感じます。

タウンズビルの島でのとある昼食



沈没した船の前で、お父さんとの一枚



平成24年度  
Townsville  
友好親善  
訪問団



## タウンズビル市友好親善訪問団に参加して

山口県立徳山商工高等学校 3年

### 柳 美帆

Miho Yanagi

この八泊九日は私にとって、とても短いものだったが、一つ一つの出来事が印象深く、良い思い出がたくさんできた。

初めは、お金の計算が難しく、ちょっとしたものを買うのにも結構な時間がかかった。二日目くらいから、少し買い物に慣れ、以前よりスムーズに買い物ができるようになった。

シドニーを訪れた時、とても寒くて驚いたことを覚えている。そして、その寒い中サーフィンをしている人たちを見て、さらに驚いた。しかし、シドニーの海はとてもきれいで、砂浜の砂も日本とは比べ物にならないくらいサラサラだった。

他にも同じ国内なのに、こんなに気温が違うのかと驚いた。気温の書かれた紙を見て想像するのと、実際に体で感じるのでは大きく異なると、ホームステイ先の家族が発表され、皆と離ればなれになったとき、とても不安だった。そんなに英語を話せない私は、家族を困らせたりしないだろうかなど、色々なことを考えた。しかし、ホストファミリーはとても優しく、私が分からない素振りや、困った顔を見ると、ゆっくり言い直してくれたり、単語を一緒に調べてくれたりしてくれた。そんなホストファミリーと過ごした時間は私にとって一番の思い出になった。そして、もっと英語を勉強して、ホストファミリーの皆と普通の会話をしたいと思った。会話をしなくても、なんとなく通じることができたが、次会うまでには会話をしたい。



学校でお別れ会をしたとき、もつお別れなのかと寂しくなった。出し物の歌を歌っていたら、ライアンの生徒たちが、私たちのそばに来て、一緒に歌ってくれた。その時、とても泣きそうになった。言葉の違いなんて、あまり感じなかった。

今回、このタウンズビル市友好親善訪問団に参加して、たくさんのが学べた。そして、これからの新しい目標ができた。

もっと長い期間ホームステイができれば、他にも多くのことを学べたのかもしれない。しかし、この体験をできたことで、自分を成長させることができた。これから、他の国に行つて、もっといろんな体験がしてみたい。



1. ホストファミリーと川に行つて遊んだ。
2. ライアンの生徒と一緒にゲームをした。
3. オペラハウスの全体を見れた。
4. Young Family と山で夜景を見た。
5. 水族館に行った。
6. ビラボン・サンクチュアリーで、いろんな動物を触つた。



# タウンズビル市友好親善訪問団

## に参加して

山口県立下松高等学校 1年

小川 真由 Mayu Ogawa

平成24年度  
Townsville  
友好親善  
訪問団

お別れの前夜に記念写真を撮りました。この家族に出会えて、本当に良かったです。とても親切にさせていただいて、言葉にならないほど感謝しています。また、いつか再会したいです。滞在中、ホストファミリーととても良い時間を過ごせました。

私はこの夏、オーストラリアで沢山のことを体験し、学びました。その中でも、この九日間で、「自分は本当に英語が大好きである。」ということが分かりました。出国前には、「ホームステイ中は不安ばかりで、ホームシックになってしまってもいいかな。」と考えていました。しかし、実際はこれとは真逆で、気づけばホストファミリーや、ライアン・カトリックの生徒達と打ち解けられていました。帰国してからこの理由を考えましたが、それは、私自身が英語を話すことを楽しんでいたのでしたと思います。単純なだけで、とても大きな発見でした。

そして、「出会いと別れを大切にしよう」ということを学びました。今思えば、私があの一週間、ずっと笑顔で何事も楽しんでいられたのは、団員の仲間達と、オーストラリアで出会った人たちのおかげだと思います。これから、その人たちは、めったに会えないと思うので、会える機会を大事にしようと思います。また、これから生きていく中で、人と別れるとき「出会えて良かった」と思えるような出会いができれば良いなと思いました。

そして最後に、何事にも感謝することを学びました。私が今年、この豪州派遣に参加でき、また、現地に行つて充実した楽しい九日間を過ごせたのは、両親や市役所の方の協力や支え、オーストラリアの人達の気遣い、そして日本の友達によるたくさんの方の応援があったからだと思います。他にもたくさん見守ってくれた人がいると思います。その人達全員に本当に感謝しています。同時に、私はこんなにいろんな人に囲まれて、本当に幸せ者だなということにも気付かされました。これから先も、たくさんの人や物に感謝し、充実した毎日を送っていきたいと思っています。

今回の、この旅に参加する上での私の目標は「今の自分の英語力を知る」ということでした。私の中で、その目標は達成できたと思います。



しかし、その「今の自分の英語力」というのが、あまり上達していないことを感じました。まず、前から「私には会話力が全然足りないのではないか」と思っていました。その思想が確信へと変わりました。もっといろいろな単語や文法など知って、知識を上げていきたいです。また、発音もどんどん磨いていきたいと思います。今、いっぱい努力して、いろんなことを学び、吸収して、今自分が持っている夢に向かって真っ直ぐに歩いていきたいです。そして、将来は必ずこの夢を実現させたいです。この旅は、私の中でその出発点となったと思います。だから、私はこの旅を一生忘れません。夢の実現のために、日々努力し、英語を目一杯楽しんでいこうと思います。



1. 17日の早朝に、シドニーの海に行きました。少し寒かったです。海水がきらきらと光っていて、とてつもなく美しい景色でした。
2. タウンズビルに着いてまず、水族館に行きました。そこで生きているサンゴを見て、あまりの色合いの美しさに、ほんとにびっくりしました。
3. 18日の夜に、日本人団員約5人と、そのホストブラザー、シスターなどの計20人弱でボーリングに行きました。とても楽しい時間を過ごすことができました。
4. 19日は午後から、カルチャーフェスタに行きました。いろいろな国の文化を見学することができました。また、ライアン・カトリックの生徒達が日本の「よさこい」を踊っていて、印象に残りました。
5. 21日の午前中、動物園に行きました。日本では、めったに触れることのできないコアラやカンガルーに触れることができ、とても嬉しかったです。とくにコアラが一番可愛かったと思います。是非、また触れ合いたいです。

平成24年度  
Townsville  
友好親善  
訪問団

## タウンズビル市友好親善 訪問団に参加して

周南市役所建設部建築課

北川 勇 Isamu Kitagawa

ピラボンサンクチュアリーでウオンバットと記念撮影のはずが、  
後ろに団員などで写ってるの・・・。

今回、この訪問団の団長に選ばれて最初はとても複雑な気持ちでした。

なぜなら、訪問前の勉強会をするにつれて、その責任の重さと現地での生活がうまくできるかどうかという不安がどんどん大きくなっていったからです。自分自身の不安と子供たちが楽しく過ごせるだろうか？いろいろなことが頭を常によぎる状況でした。しかし、タウンズビルへ到着しホストファミリーと合流した子供たちの顔を見てみると、そんな後ろ向きではないかと思いき、とにかく笑顔で子供たちを送り出そう、そして、このホームステイを楽しもうと決心しました。

到着が金曜日の夕方だったので、すぐに家族との生活が始まりました。とても温かく迎え入れて頂き、感動しました。最初の夜は、シカの肉の料理やワインなどを頂きました。なんといっても感動したのが、その時にかけていた音楽でした。日本の小田和正やアクアタイムズだったので。日本が世界でも愛されているんだなと感じた瞬間でした。土曜日・日曜日は、カヌーへ連れて行ってもらったり、年に一度盛大に行われるカルチャーフェスというお祭りに連れて行ってもらったりして、充実した休みを過ごすことができました。月曜日と火曜日はホストファミリーと一緒に学校へ行き、訪問団は英語の授業を受けました。

1. 土曜日にカヌーへ行った時の写真です。ホストファミリーのパトリック(右)とセツコ(左)さんです。いろいろ連れて行ってもらって最高の思い出が出来ました。
2. 登校2日目の放課後、学校の先生の一人であるマイクと一緒にゴルフへ。とても楽しかったです。
3. 英語の授業風景です。私自身も授業に参加しました。自分の聞き取る能力のなさにショックを受けました。
4. 最終日にみんなで集合写真を撮ったものです。みんな最高!!!



この時、子供たちは三日ぶりに出会えたメンバーと日本語を話せる喜びを感じていたのではないのでしょうか？朝みんなで集まった時の嬉しそうな表情でそう感じました。タウンズビルの学校では十時にみんなでモーニングテイーというおやつ時間が、家から持ってきた果物やケーキ、サンドウィッチなどを食べる習慣があり、日本とは違った経験をした瞬間の一つでした。授業を受けるにつれて徐々に積極的に現地の生徒に話しかける子供たちもいて、少しずつ成長を感じました。やはり、過ごす環境というのはとても重要であると思いました。火曜日は、もう一つピラボン・サンクチュアリーという動物園に行きました。

子供たちは念願のコアラやワニやヘビを触り、一緒に写真を撮ったりして、オーストラリアを満喫していました。この時は、自分もコアラを生れてはじめて見て、触ることもでき、少年のころに戻ったような感覚になっていました。

着いた当初は長いと思っていたホームステイも、いよいよお別れの日当日。朝七時に学校に集合して全体写真を撮り、空港行きのバスに乗り込む流れでしたが、子供たちは皆、迎え入れてくれた家族との別れが寂しくなり抱き合ったり、泣いたりそんな姿を見て、自分もこの訪問団の一員でよかったと改めて思いました。

行く前の不安はなんだったのかというぐらい、とても充実した楽しい九日間でした。今いろいろとスケジュール調整や段取りをしてくださった周南市の方々、本当に有難うございました。一生の思い出を楽しいメンバーとつくることができ、私は本当に幸せです。